

遠野文化フォーラム
「鎮魂と芸能」

あの日から、巨大な災厄が続いている。

その影のもとで、芸能がもつ大きな役割が浮かびあがった。

鹿踊りや剣舞など、東北の民俗芸能の多くが、死者の供養や鎮魂に深くかかわることは、偶然ではない。

芸能の根底に横たわるものに、眼を凝らしたい。

(遠野文化研究センター所長 赤坂 憲雄)

講師 紹介



佐々木 幹郎

(ささき みきろう)

1947年、奈良県生まれ。日本を代表する詩人、中原中也研究の第一人者。同志社大学文学部哲学科中退。著書に『明日』（萩原朔太郎賞）、『中原中也』（サントリー学芸賞）、『アジア海道紀行』（読売文学賞）ほか。震災以降、二代目高橋竹山と東北を巡り、被災者の声を聴き、民謡のルーツを辿る旅の記録『瓦礫の下から唄が聴こえる―山小屋便り』が話題となっている。



阿部 武司(あべ たけし)

1945年、栃木県生まれ。映像制作者。民俗芸能学会評議員。國學院大学日本文学科中退。国家公務員を経て1975年、東京より岩手に移住し映像制作会社を起業。1998年には東北文化財映像研究所を設立。制作映像に「黒森神楽」「北上みちのく芸能まつり」「遠野の年中行事」「板沢し踊り普及版」「鶺鴒神楽」など多数。



二代目 高橋 竹山

(たかはし ちくぜん)

1955年、東京都生まれ。津軽三味線奏者。1972年初代・高橋竹山に内弟子入門し、師の芸を受け継ぐ。1997年二代目高橋竹山を襲名。国内外で演奏活動を行う。震災後は、詩人の佐々木幹郎と東北を訪ね歩き、仮設住宅等でチャリティ・ライブを行いながら、土地に根付いた民謡を探った。現在も、様々なジャンルの演奏家たちと共演しながら、独自の音楽の世界を築いている。



三浦 佑之(みうら すけゆき)

1946年、三重県生まれ。成城大学文芸学部卒業。古代文学・伝承文学を専攻し、2009年より立正大学教授。『遠野物語』の説話分析を中心とした『村落伝承論―遠野物語から』で第5回上代文学会賞を受賞したほか、2003年ベストセラーとなった『口語訳 古事記』で第1回角川財団学芸賞を受賞し、古事記ブームの火付け役となった。



西館 好子(にしだて よしこ)

1940年、東京都生まれ。1982年劇団こまつ座主宰、演劇のプロデュースを手掛ける。1985年、第20回紀伊屋演劇団体賞を受賞。1995年スポーツニッポン文化大賞受賞。30年に及ぶ演劇活動、DV、子供の虐待、女性問題への活動などを経て、2000年日本子守唄協会設立。現在は女性史の一つともいえる子守唄に取り組んでいる。



小田 朋美

(おだ ともみ)

1986年、神奈川県生まれ。作曲家、ヴォーカリスト、ピアニスト。東京藝術大学音楽学部作曲科卒。ソロ活動に加え、詩と音楽のコラボレーション集団「VOICE SPACE」、菊地成孔主宰のピックバンド「dCprG」のほか、二代目高橋竹山の演奏会にピアノで出演など多岐にわたる。2013年高橋竹山 with 小田朋美でアルバム『彩』、ソロアルバム『シャーマン狩り』を発表。



赤坂 憲雄(あかさか のりお)

1953年、東京都生まれ。民俗学者。1978年東京大学文学部卒業後、立教大学などを経て、東北芸術工科大学助教授に就任。民俗学をベースに東北の文化や歴史を掘り起こす「東北学」を提唱し、東北文化研究センター設立。2004年から福島県立博物館長、2011年から学習院大学教授、遠野文化研究センター所長を務める。

8月22日(土) あえりあ遠野

8月23日(日) 遠野みらい創りカレッジ(旧土淵中学校)



遠野みらい創りカレッジ
バスのご案内

早池峰バス「土淵線」

遠野駅 8:01 → 8:26 伝承園
伝承園 13:37 → 14:08 遠野駅

運賃 片道300円